

平成24年度第2回野菜需給協議会の概要

独立行政法人農畜産業振興機構

昨日、生産者、流通業者、消費者等野菜の関係者が一堂に会する平成24年度第2回野菜需給協議会が開催され（11月12日（月）13：30～、（独）農畜産業振興機構会議室）、「**秋冬野菜は、順調な出荷により、価格は概ね前年を下回って推移する見込み**」であることを確認しました。概要は下記のとおりです。

記

1 平成24年産秋冬野菜の需給・価格の見通しについて

- ・野菜需給・価格情報委員会（平成24年11月6日開催）においてとりまとめられた「平成24年産秋冬野菜の需給・価格の見通し」について確認した（具体的には別紙参照）。

【ポイント】

- ・**冬キャベツの価格**は、順調な出荷が見込まれることから、**前年を下回って推移**する見込み。
- ・**秋冬だいこんの価格**は、一部の産地に干ばつや台風の影響があったものの、大きな被害はなく、順調な出荷が見込まれることから、概ね**前年を下回って推移**する見込み。
- ・**たまねぎの価格**は、北海道が前年を上回る出荷が見込まれることから、**前年を下回って推移**する見込み。
- ・**冬にんじんの価格**は、一部の産地で豪雨や台風の影響があったものの、順調な出荷が見込まれることから、**前年を下回って推移**する見込み。
- ・**秋冬はくさいの価格**は、11月から12月にかけては、昨年は気温が高く安価であったことから、前年を上回ると見込まれるが、1月以降は、概ね**前年を下回って推移**する見込み。
- ・**冬レタスの価格**は、一部の産地で干ばつや台風の影響があったものの、順調な出荷が見込まれることから、概ね**前年を下回って推移**する見込み。

・会員から以下のような発言があった。

- ① 野菜の味が良くなったと感じているが、カット野菜のメニュー提案もそのおいしさを活かしてほしい。また、冷凍野菜は便利であり、夏に冷凍ほうれんそうを使うなど、活用することが重要。
- ② 福島産野菜については、まだ、逆風が吹いているが、生産者は、良い品質のものを生産している。
- ③ 高齢化の進展で野菜の作付面積が減っているということについて、心配している。

2 野菜の需要動向について

- ・全国漬物協同組合連合会から、北海道の集団食中毒に対する漬物業界の対応について説明があった。
- ・社団法人日本惣菜協会から、惣菜業界における野菜の需要動向について説明があった。

3 野菜の消費拡大活動等について

- ・8月31日に実施した野菜シンポジウムの概要について報告があった。
- ・各会員から消費拡大の取組予定について報告があった。
- ・会員から、消費拡大の目標があるのか、また、ターゲット層はあるのか、との質問があり、健康日本21の350g/人・日を目標に置いている、シンポジウムは、消費量の特に少ない若年層の消費拡大を目指して実施したとの回答があった。

(参考) 配布資料等については、ホームページで公表いたします。

(問い合わせ先)
(独)農畜産業振興機構
野菜需給部需給推進課
前川、桃野、小峯
電話番号：03-3583-9478

○平成24年産秋冬野菜の需給・価格の見通しについて

(別紙)

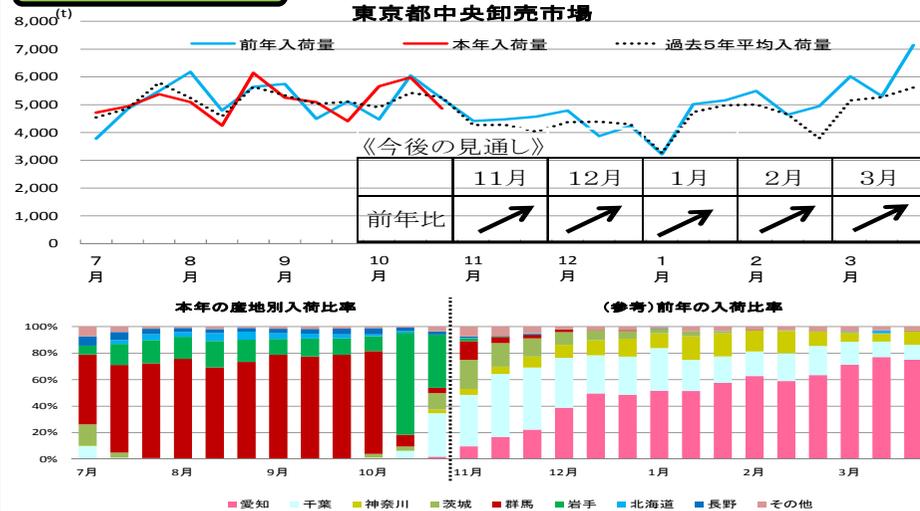
冬キャベツ(11~3月)

主産地の動向等

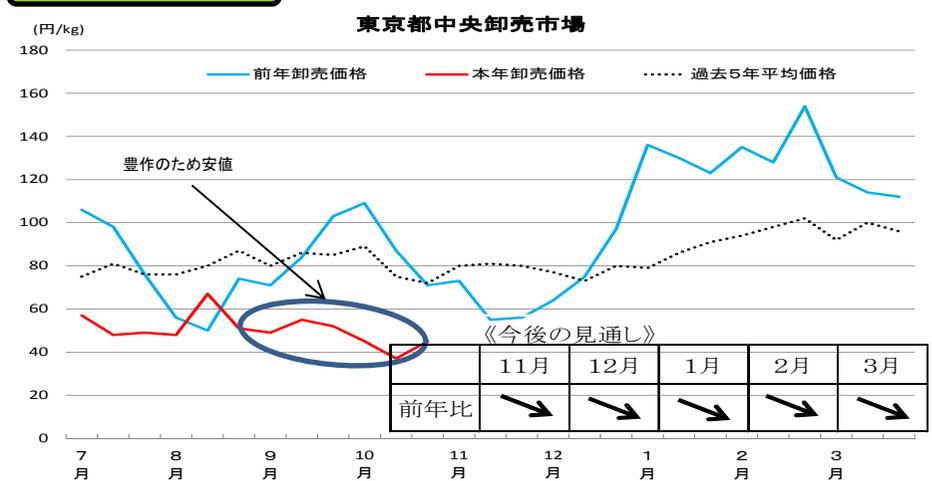
(主な産地:千葉、神奈川、愛知)

- 1 作付面積は、千葉、愛知は前年比100%、春キャベツから出荷時期を前倒しする計画の神奈川は同109%。
生育状況は、千葉は、夏場の猛暑の影響から生育は1~2週間程度の遅れが見られたものの、9月以降は回復し、順調に生育。神奈川は、病害の発生もなく、生育は良好。愛知は、9月30日に台風17号が上陸したが、その後、天候に恵まれたことから、概ね順調に生育。
出荷開始は、千葉は9月下旬、神奈川は10月上旬、愛知は10月中旬。
- 2 この先1か月の気象予報は、平均気温は平年並み、降水量は平年より少なく、日照時間は平年並みとなる見込み。

入荷量の推移等



価格の推移等



野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

- 1 供給見通し
作付面積は、千葉及び愛知は前年並み、神奈川は前年をかなり上回る見込み。
生育状況は、猛暑の影響から、一部生育に遅れがみられたもの、9月以降は、生育が回復し、作柄は良好。
出荷量は、期間を通して、前年を上回る見込み。
- 2 需要・価格見通し
期間を通して順調な出荷が見込まれることから、価格は、前年を下回って推移する見込み。
なお、加工・業務用については、年内は価格が安いので、国産が主体となって利用されるものの、年明け以降は中国産及び韓国産が出回る見込み。

秋冬だいこん(10~3月)

主産地の動向等

(主な産地:千葉、神奈川、徳島)

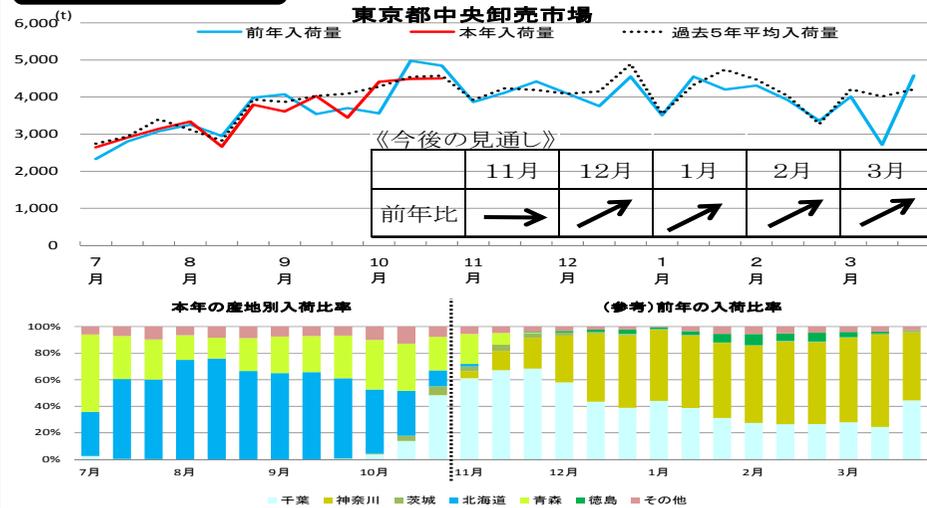
1 作付面積は、千葉、神奈川、徳島ともに前年比100%。

生育状況は、千葉は、8月~9月上旬にかけての干ばつの影響から播種作業が遅れたが、9月中旬以降は適度な降雨により、一部の産地を除き概ね生育は順調。神奈川は、台風等の影響もなく、生育は順調。徳島は、9月30日の台風17号の被害が一部見られるが、大きな被害はなく、順調。また、年明けの比率を増やしている。

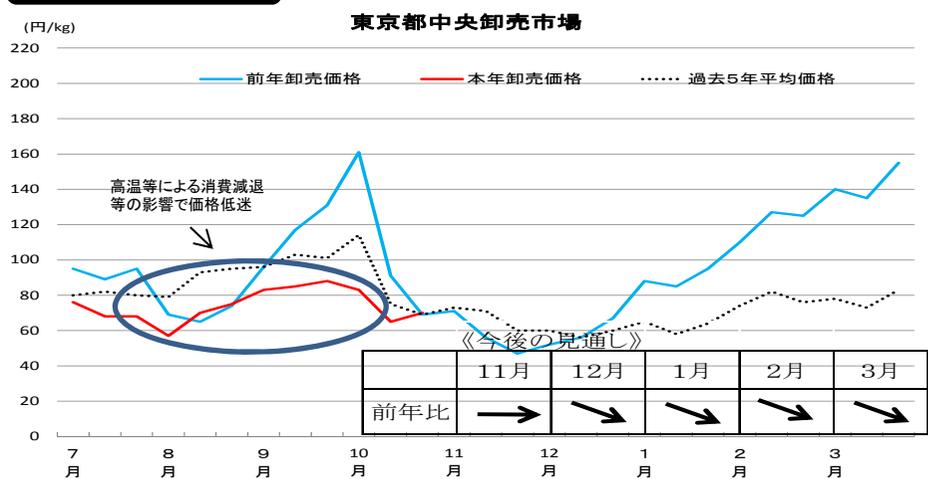
出荷開始は、千葉は10月中旬、神奈川、徳島は11月上旬。

2 この先1か月の気象予報は、平均気温は平年並み、降水量は平年より少なく、日照時間は平年並みとなる見込み。

入荷量の推移等



価格の推移等



野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

1 供給見通し

作付面積は、千葉、神奈川、徳島ともに前年並みの見込み。

生育状況は、一部産地に干ばつや台風の影響があったものの、大きな被害はなく、概ね良好。

出荷量は、11月は前年並み、12月以降は前年を上回る見込み。

2 需要・価格見通し

期間を通して概ね順調な出荷が見込まれることから、価格は、概ね前年を下回って推移する見込み。

気温が低いと肥大が進まず、歩留まりが悪くなることに加え、消費が伸びることから、価格が上昇する可能性もある。

だいこんは、カット売りの割合が増加している。また、加工・業務用においては、市場外流通のウエイトが高くなっている。

たまねぎ(11~4月)

主産地の動向等

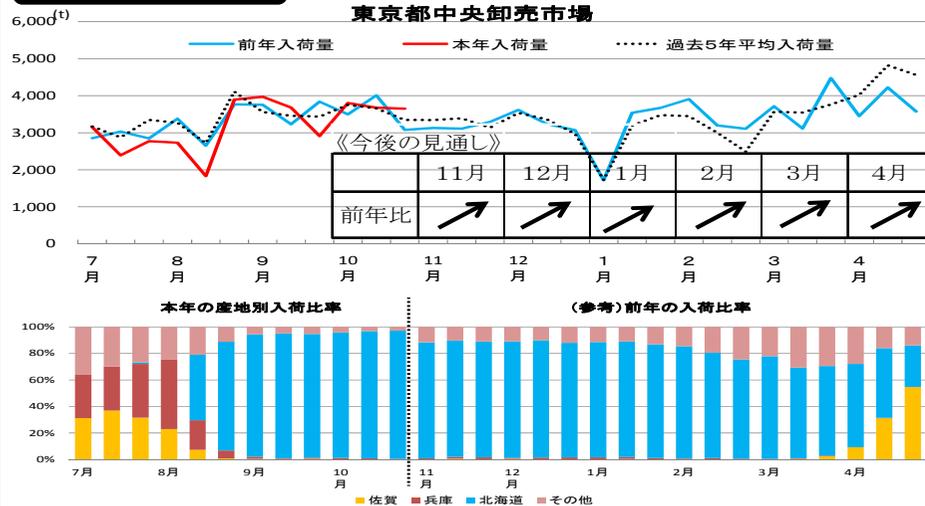
(主な産地:北海道)

1 作付面積は、北海道は前年比103%。

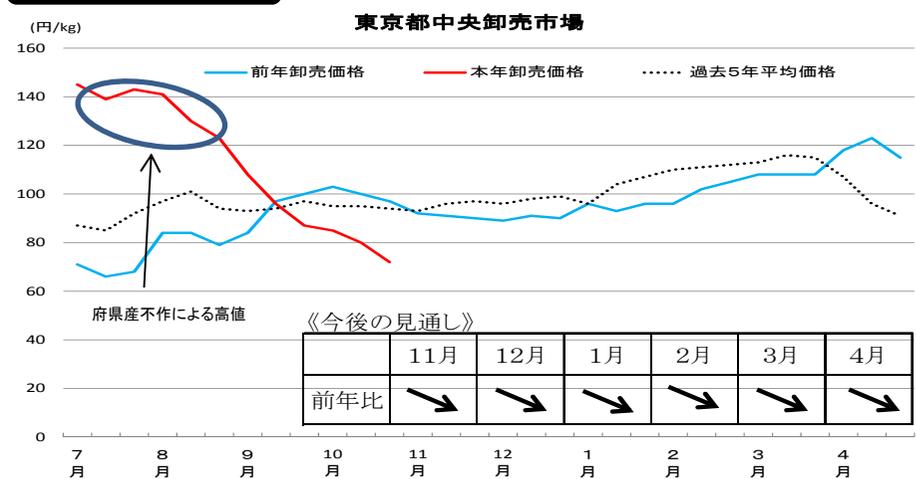
生育状況は、北海道は、極早生と早生は、4月以降天候に恵まれて順調な定植となったため、豊作傾向となっており、中生と晩生は、5月上旬の降雨で一部産地で定植作業が遅れたことから、ほぼ平年並み。

2 この先1か月の気象予報は、平均気温は平年並み、降水量は平年より少なく、日照時間は平年並みとなる見込み。

入荷量の推移等



価格の推移等



野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

1 供給見通し

作付面積は、北海道は、前年をやや上回る見込み。

生育状況は、5月上旬の降雨の影響から、一部、定植作業に遅れが見られたものの、生育は順調でほぼ平年並み。

出荷量は、期間を通して、前年を上回る見込み。

2 需要・価格見通し

期間を通して順調な出荷が見込まれることから、価格は前年を下回って推移する見込み。

加工・業務用においては、国産たまねぎの生育状況にかかわらず、輸入剥きたまねぎへの需要は根強い。

今年は、中国産が不作であったことから、皮付きたまねぎの内外価格差は小さくなっている。

冬にんじん(11~3月)

主産地の動向等

(主な産地:千葉、愛知、長崎)

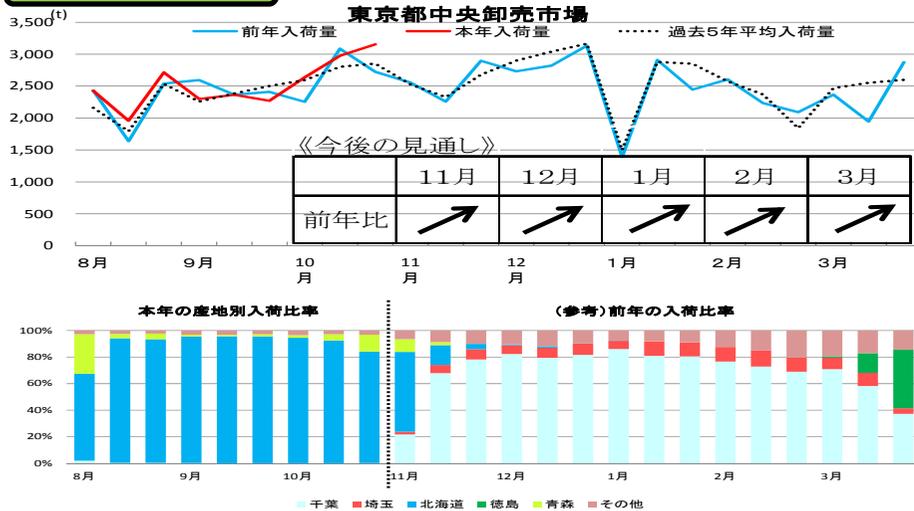
1 作付面積は、千葉は前年比100%、愛知は高齢化による作付減により同98%、長崎は同102%。

生育状況は、千葉は、8月の豪雨の影響で一部産地で発芽不良が散見されたが、その後、播き直しが行われ、概ね順調な生育。愛知は、9月30日の台風17号の影響は限定的で、生育は順調。長崎は、9月17日の台風16号の影響により、一部圃場で欠株の被害が散見されたものの、その後は、適度な降雨もあり順調に生育。

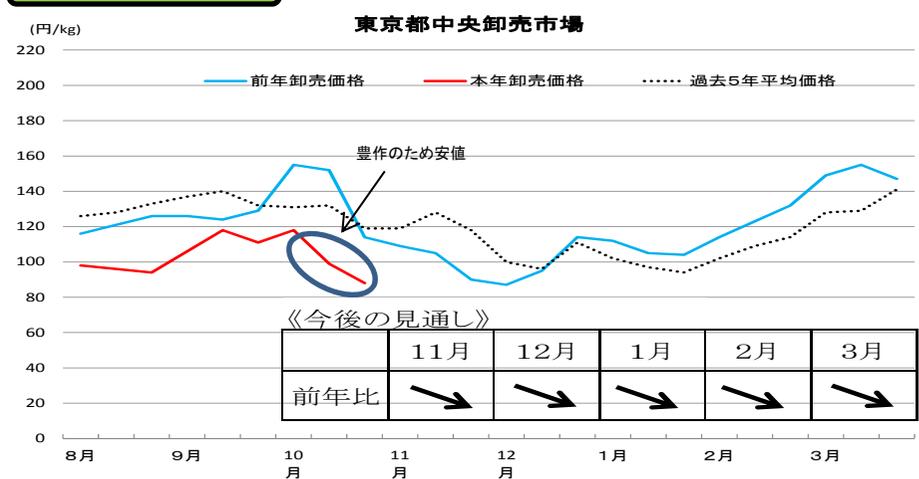
出荷開始は、千葉は10月下旬、長崎は11月上旬、愛知は11月中旬。

2 この先1か月の気象予報は、平均気温は平年並み、降水量は平年より少なく、日照時間は平年並みとなる見込み。

入荷量の推移等



価格の推移等



野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

1 供給見通し

作付面積は、千葉は前年並み、愛知はやや下回るものの、長崎はやや上回る見込み。

生育状況は、一部の地域で豪雨や台風の影響を受けたが、順調に生育。

出荷量は、期間を通して前年を上回る見込み。

2 需要・価格見通し

期間を通して順調な出荷が見込まれることから、価格は、前年を下回って推移する見込み。

家計消費はM~Lサイズ、加工・業務用は2L~3Lサイズが好まれることから、それぞれの需要に見合った生産を行う必要がある。

外食等では、国内価格が高くなると輸入を手当てするようになる。

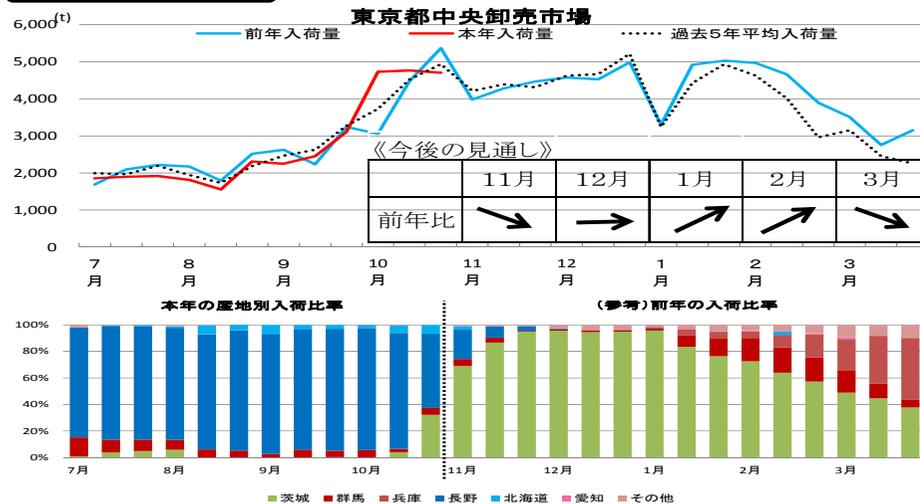
秋冬はくさい(10~3月)

主産地の動向等

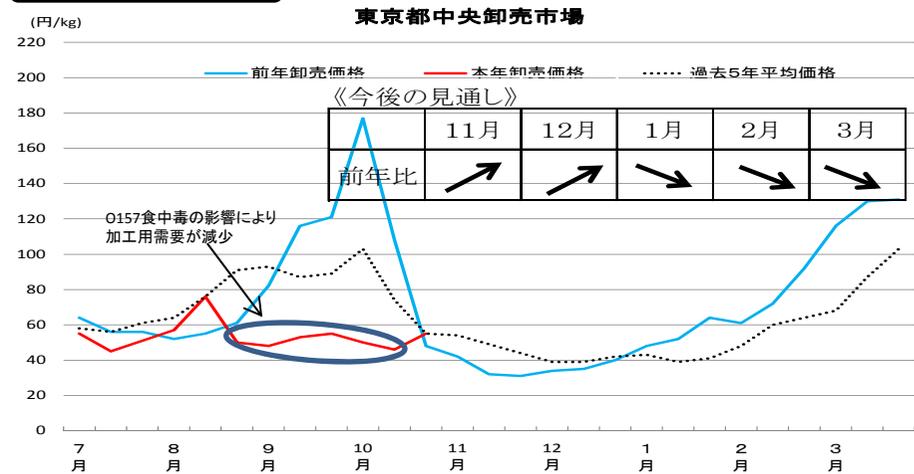
(主な産地: 茨城、愛知、兵庫)

- 1 作付面積は、茨城は前年比100%、愛知は高齢化による作付減により同96%、兵庫は作付意欲が高く同112%。
生育状況は、茨城は、夏場の干ばつによる生育の遅れが懸念されていたが、その後の適度な降雨もあり、概ね回復。愛知は、9月30日の台風17号の影響は少なく、生育は順調。兵庫は、台風等の影響を受けた圃場もあるが、徐々に回復。
出荷開始は、茨城、愛知は10月下旬、兵庫は11月下旬。
- 2 この先1か月の気象予報は、平均気温は平年並み、降水量は平年より少なく、日照時間は平年並みとなる見込み。

入荷量の推移等



価格の推移等



野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

- 1 供給見通し
作付面積は、茨城は前年並み、愛知はやや下回るものの、兵庫はかなり上回る見込み。
生育状況は、一部の産地で台風等の影響を受けたが、夏場の干ばつの影響もなく、順調に生育。
出荷量は、茨城が年明けに作型を変更したことから、11月は前年を下回り、12月は前年並み、1~2月は前年を上回る見込み。一方、3月は兵庫の作型の変更により、前年を下回る見込み。ただし、11月の気温が低くなると生育が停滞し、2月以降の供給が下がる可能性がある。
- 2 需要・価格見通し
11~12月にかけては、昨年は気温が高く安価であったことから、価格は、前年を上回ると見込まれるが、1月以降は、前年を下回る見込み。
O-157による食中毒の影響により、漬物需要が減少しており、今後も尾を引く可能性がある。
11月の気温が低くなると出荷量が減少し、2月以降の価格が上がる可能性がある。

冬レタス(11~3月)

主産地の動向等

(主な産地: 茨城、静岡、兵庫、香川)

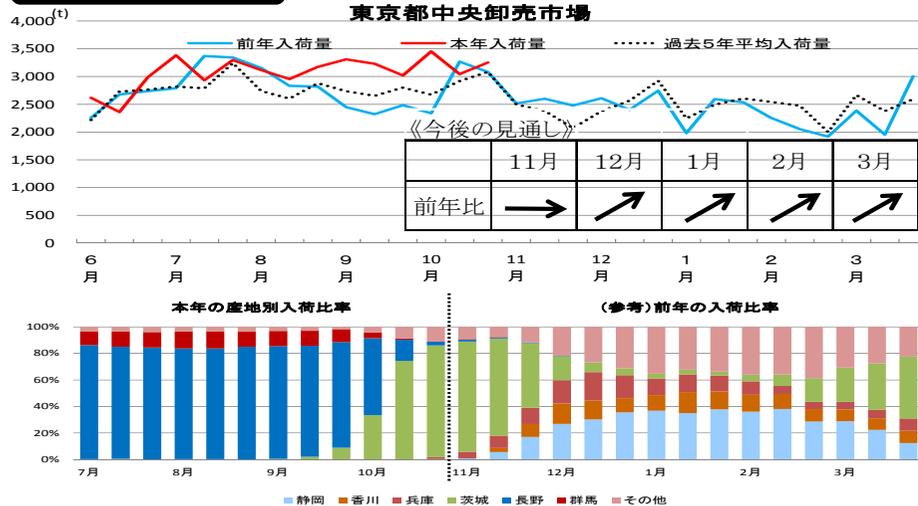
1 作付面積は、茨城は前年比102%、静岡は同100%、兵庫は同99%、香川は生産者の減少等により同96%。

生育状況は、茨城は、定植作業が遅れていたが、9月上旬以降の適度な降雨により生育が回復。静岡は、干ばつや高温の影響から多少の遅れが見られるが、生育は順調。兵庫は、出荷時期の早いものは台風の影響を受けたが、その後、徐々に回復。香川は、露地栽培が台風の影響を受けて、定植が進んでいないが、その後のトンネル栽培は順調。

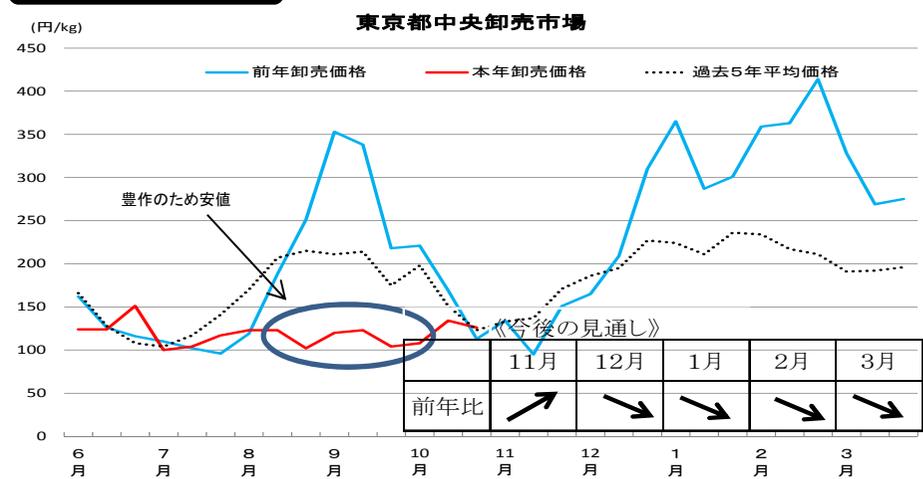
出荷開始は、茨城は9月下旬、香川は10月上旬。静岡、兵庫は10月中旬。

2 この先1か月の気象予報は、平均気温は平年並み、降水量は平年より少なく、日照時間は平年並みとなる見込み。

入荷量の推移等



価格の推移等



野菜需給・価格情報委員会での需給・価格の見通し

1 供給見通し

作付面積は、茨城は前年をわずかに上回り、静岡は前年並み、兵庫はわずかに下回り、香川はやや下回る見込み。

生育状況は、一部の産地で干ばつや台風の影響を受けたが、その後は順調に生育。

出荷量は、期間を通して、概ね前年を上回る見込み。

2 需要・価格見通し

期間を通して概ね順調な出荷が見込まれることから、価格は、11月を除き前年を下回って推移する見込み。11月は、昨年は安値だったことから、前年を上回る見込み。なお、天候に大きく左右される品目であることから、天候次第で価格が変動する可能性がある。

九州の加工・業務用向け産地の作柄次第で、価格が上昇する可能性がある。

加工・業務用では、米国や台湾から一定量の輸入がある見込み。

その他、秋冬野菜全体の消費の動向など

① 冬場の状況による影響(暖冬傾向になった場合の影響等)

- ・暖冬になると、野菜が採れすぎて価格が下がる恐れがある。
- ・暖冬となると、だいこんやはくさいといった商品が売れなくなる一方で、きゅうりやトマト等のサラダ商材が売れるようになる。鍋物的な素材が売れなくなるため、他のメニュー提案をしていきたい。

② カット野菜や冷凍野菜の動向

- ・カット野菜は、順調に伸びている。これまでは野菜の価格の高騰時に売れていたが、安くなっても売れている。消費者が利便性に着目して使うようになったのではないか。
- ・外食では、厨房の人数が減り、調理技術が低下してきており、カット野菜のニーズが高まっている。
- ・単なるカット野菜から、例えばシーザーサラダ用のカット野菜等、用途ごとにバリエーションを増やすことにより、需要がさらに伸びる可能性がある。
- ・冷凍野菜は、例えば九州の国産野菜の工場では、冷凍オクラの品質が非常に良く、また、冷凍ほうれんそうは内外価格差が、これまでの5倍から2倍へと小さくなっている。国産の冷凍野菜を国としても推進すべきである。

③ 主要6品目以外の野菜で、販売戦略として特に注目している品目の動向

- ・機能的な話題となったトマトは、そもそも売上がトップの商品である。これまではサラダ等生食での食べ方が中心であるが、トマト鍋等加熱調理での食べ方も登場しており、今後も期待している。
- ・こだわり野菜として、西洋野菜やミニ野菜に取り組む農家が増えており、直売所等において人気が出てきている。
- ・甘いピーマン等、今までと違った品目を取り扱ったところ、売り上げが伸びた。
- ・西日本で使われていた青ねぎが、関東でもうどんのチェーン店等で普及してきている。
- ・温野菜に期待しており、今後強化していきたい。

④ 野菜の需要喚起・消費拡大のアイデア等

- ・消費者や納品先に、一手間加えておいしく食べる工夫や、野菜の栄養等、消費者等が知らない情報を伝えることが重要であると考えている。
- ・野菜の消費を拡大するため、朝食で利用できるグリーンスムージーによるメニュー提案を行うことを検討していきたいが、効能をどうしたらうまく表示できるかが課題である。
- ・国産ブランドを使いたいと考えている人は多いので、直売所等を中心に、旬の野菜を食べるといった行動につながるような活動を進めたい。

⑤ 今後の産地のあり方

- ・加工・業務用需要は野菜生産を考える上で欠かせないものとなっており、専用の産地を育成する必要がある。
- ・家計消費用の野菜の生産を維持していくためには、適正生産量を十分に踏まえた生産体制を構築する必要がある。